

政策検討支援ツール

「リファレンス・ロジックツリー」活用ガイド

国民G デジ田チーム w/慶応大学前野・白坂研究室

経緯と狙いについて

(政策の自分ごと化を広く進めていくために)



経緯と本年度の取組

「Well-Being指標の分析を通じた重要となる課題分野の特定」

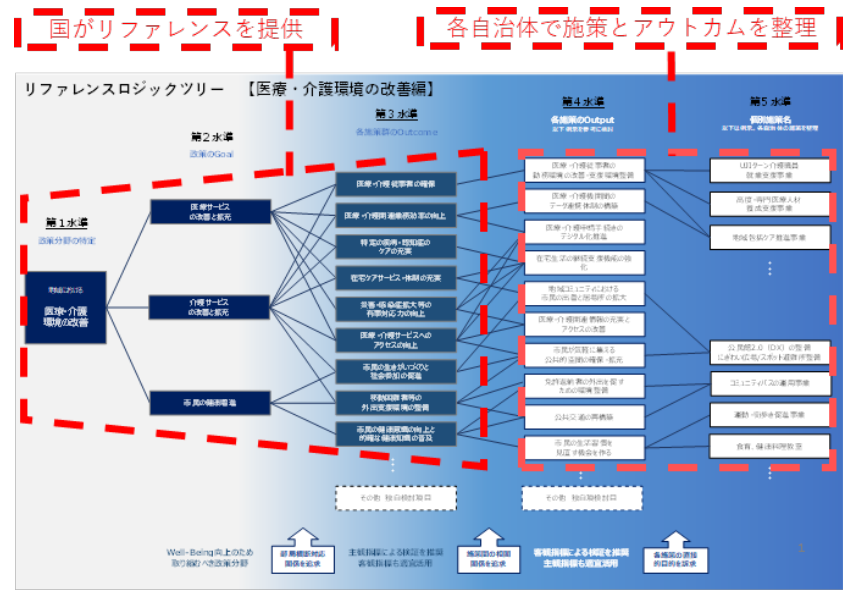
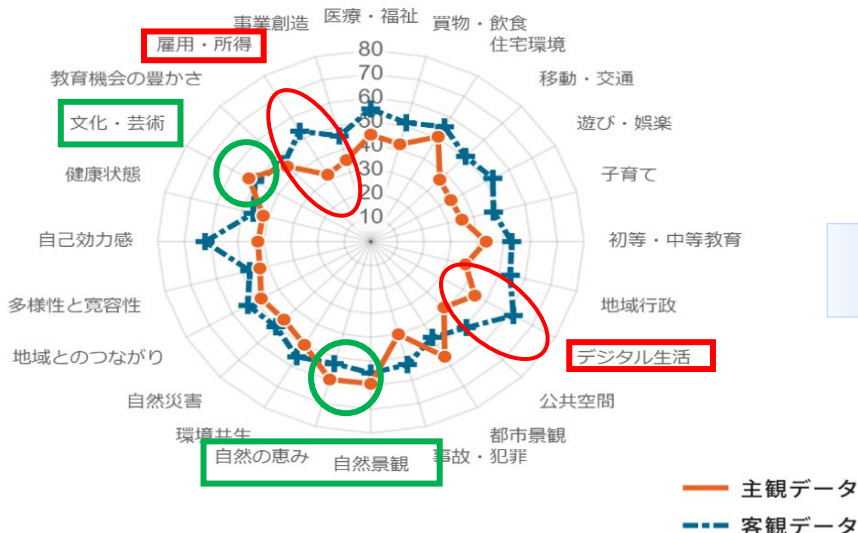
- 2023年度より、デジ田交付金Type2/3の交付団体に対し、Well-Being指標（WB指標）に基づく地域の課題抽出作業を推奨し、現在、70以上の自治体が取組を実施しています。
- 地域の強みや課題について、WB指標を活用したワークショップ等を開催。重要な政策分野はどこか、市民とともに認識の共有を進めており、本年度からはファシリテーターの派遣事業も開始します。

「ロジックツリー作りを通じた、重要となる施策及び関連施策の特定」

- WB指標分析を経て浮き彫りとなった課題に対し、関連する施策群を俯瞰し、重視すべき施策と相互に影響を及ぼす施策を検証します。
- デジタル基盤を共用した行政サービスのDX事業のため、部局横断的な協働と市民の参画を促します。



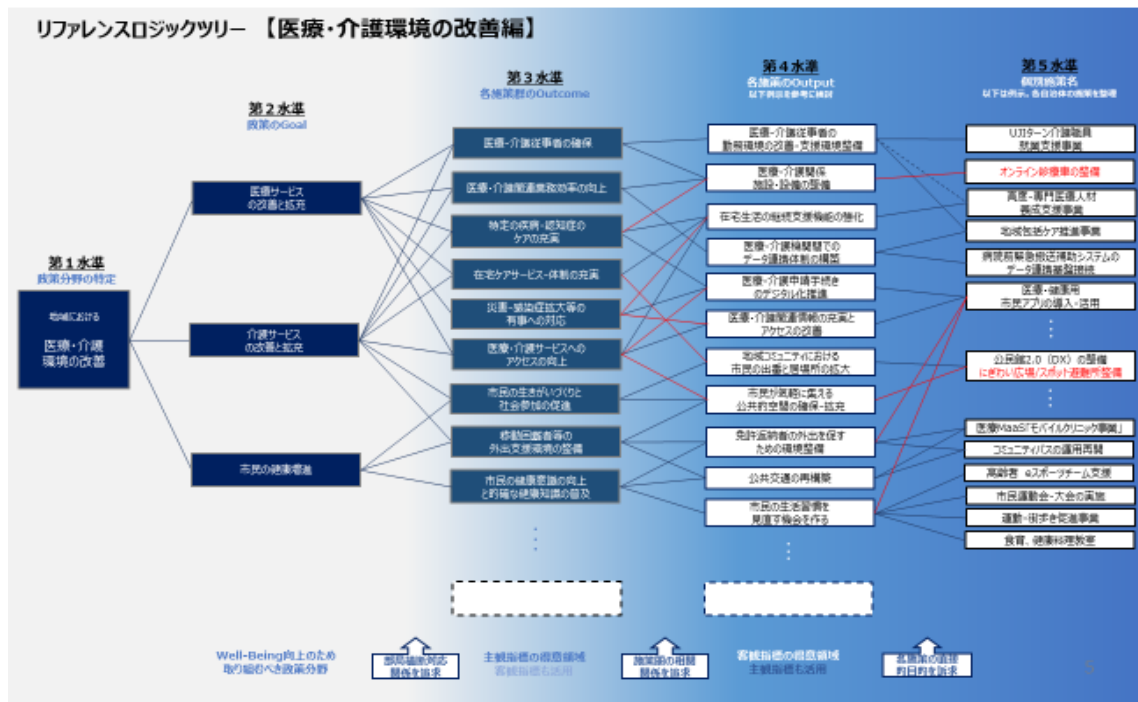
部局を越えた共通認識に！
市民との協働のきっかけに！



取組の概要

- 「リファレンス・ロジックツリー」と「指標カタログ」、また、これらを作成・活用するための「活用ガイド」を、慶応大学前野・白坂研究室の協力を得て、デジタル庁から自治体に対して提供します。（下図イメージ）
- 各自治体では、これらを参考として、部局横断的なチームを編成し、デジタル庁推奨分野のロジックツリー第一版（たたき台）を作成してください。デジタル庁は相談窓口などを通じ、各自治体の作業を支援します。
- 各自治体では、ツリーを作成する際の議論を通じて、各分野において特に重点的に取り組むべき取組、及びそれを支える関連施策との相乗効果や関係性について、関係者間で部局横断的に認識を共有してください。また、その過程において、デジ田交付金事業及び関連施策との関係についても明確にしてください。

【作成中のリファレンスロジックツリー（医療・介護分野）】



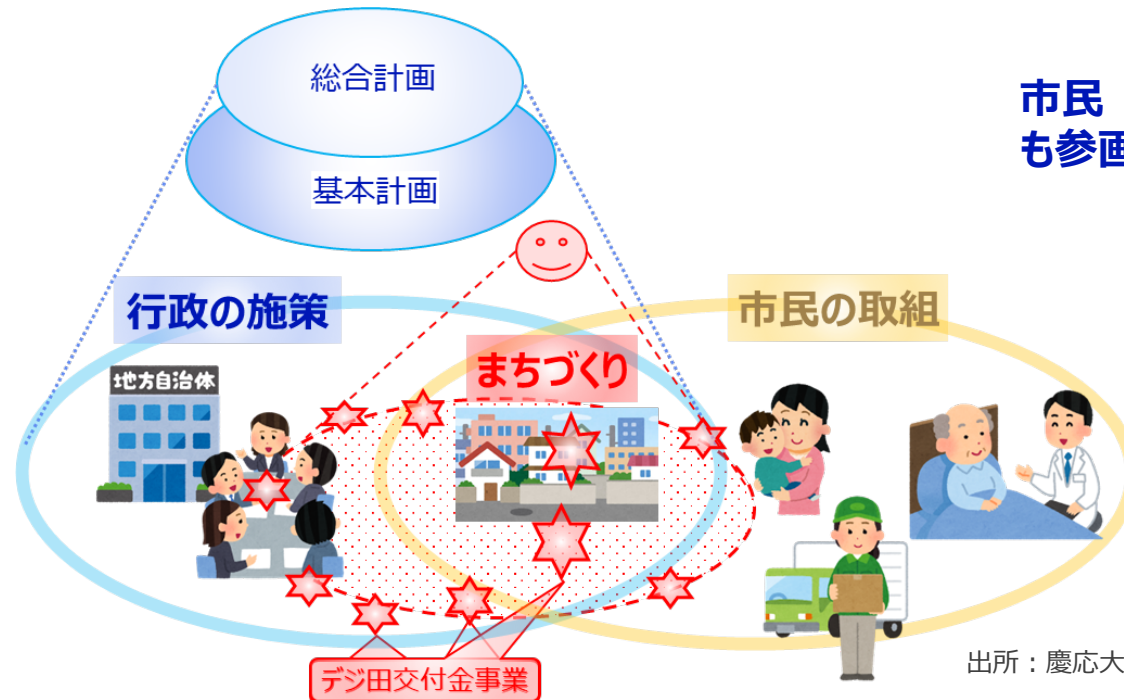
【デジ庁推奨分野（検討中）】

分野	自治体名
医療・介護	札幌市、富山県朝日町、能美市、蒲郡市、養父市、備前市
モビリティ	更別村、境町、三島市
子育て	姫路市
防災	焼津市、山口市、大村市、延岡市
デジタル生活	会津若松市、前橋市、佐賀市
要相談	大阪府、広島県

狙い：部局と官民の壁を越えた認識の共有と取組の実践により、Well-beingを高める循環構造を生み出す

- ロジックツリー作りを通じて、立場が異なる多様な関係者が自らの考えを積極的に共有し、他者の意見にも耳を傾け、意思疎通を図ることで共創を生み出すことを目的としています。また、この共創のプロセスへの参画が関係者各自のWell-beingを高めることに寄与し、また、その結果生み出された施策の成果により、市民全体のWell-beingが高められるという循環構造を生み出したいと考えています。
- 同時に、行政内部では、部門を跨いだ議論と認識の共有を図り、デジタルだけが一人歩きしない、部局横断的に暮らしの改善を生み出す取組の土台を構築。これにより、効果的な政策・施策の見落としを防ぎ、データに基づく分析を進めることで、成熟度の高い政策サイクルの実現を目指していきたくと考えています。
- 更に、ロジックツリーのたたき台ができあがってきた段階では、この検討の輪に、ワークショップなどを通じ、市民（民間事業者等）にも直接参画してもらい、官民を跨いで、一人一人に、重要な取組の「自分ごと化*」を促していただければ理想的です。ロジックツリーは、自治体に取り組む政策・施策が市民のWell-being向上につながるという、明瞭な政策ストーリーとなっていきます。

*自分ごと化：市民が自らの生活や関心に関連づけて考えられている状態



市民（民間事業者等）
も参画して社会実装へ

活用ガイド その1

ロジックツリーとは

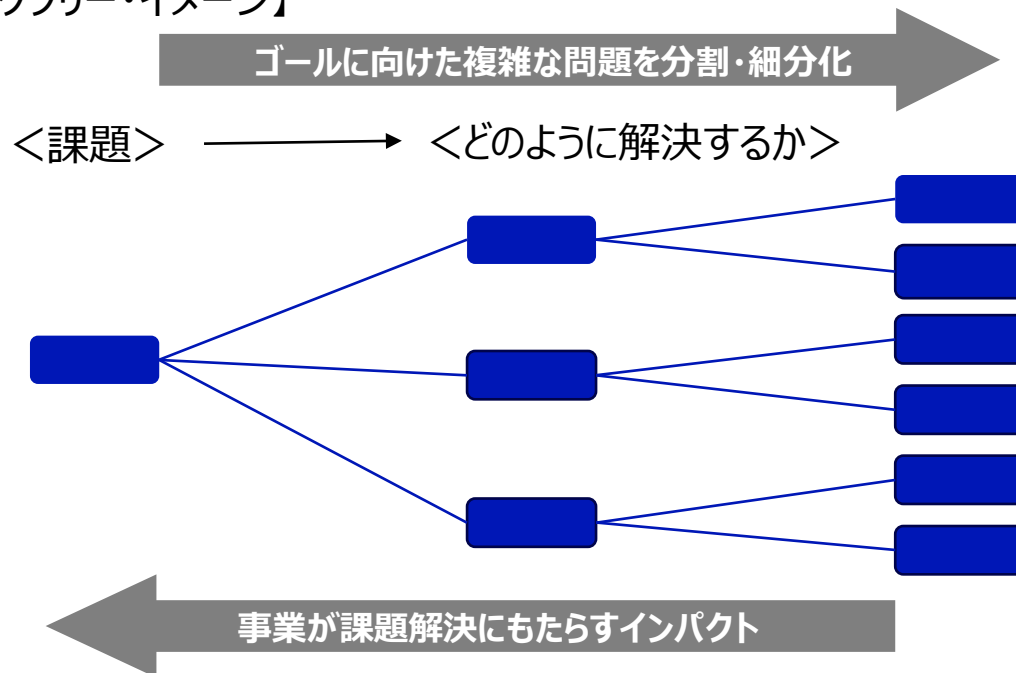


ロジックツリーとは

ロジックツリーとは、問題解決や意思決定を行う際、その思考過程を構造的に見える化する手法です。複雑な問題をより扱いやすいサイズに分割・細分化し、解決策や行動計画を段階的に検討する際の有用な思考ツールです。

- 各施策に関し、関係部局間や、市民(事業者等)との間で、最終的な施策のゴールと関連する諸施策との関係について共通理解を醸成し、それぞれが納得して実現に向け取り組むこと（自分ごと化）を行いやすくするのが狙いです。
- 各施策に関し、課題解決に与えるインパクトをKPIとして適切に設定することで、ゴール達成に向けてよりインパクトの大きい取組の特定や部局を越えた取組間の相乗効果などを明らかにします。また、各取組の貢献度や効果検証を行うためにも有効なツールとなります。

【(How) ロジックツリー・イメージ】



(※) ロジックツリーの説明は、どのサイトをとっても大きくは変わりませんが、このあたりのサイトが参照しやすいかもしれません。

[【ロジックツリー】具体例を交えて作り方と注意点を徹底解説！ | ロジックワークスの論理教室 \(logicworks.co.jp\)](#)

[世界一分かりやすいロジカルシンキング講座③【ロジックツリー】 \(youtube.com\)](#)

活用ガイド その2

具体的な作業の手順



ロジックツリーの骨格①

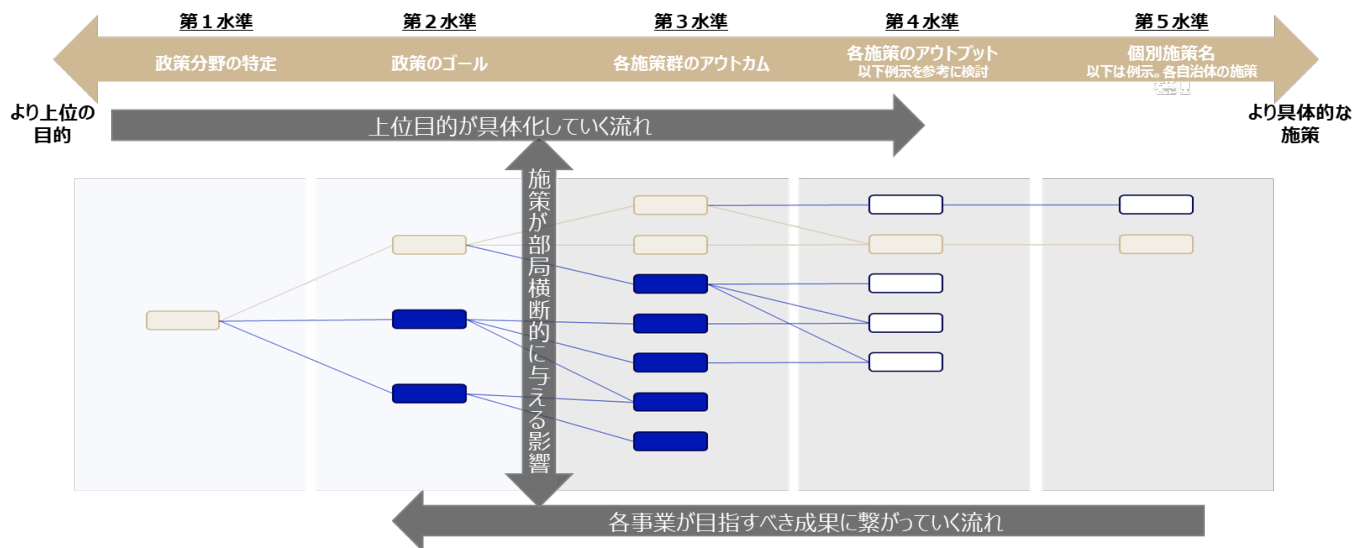
- ロジックツリーは、要素間の論理的関係を整理をしていく思考ツールであり、抜け漏れのない正解を目指すことより、複数の関係者とブレスト*をしながらツリーを作りあげるプロセス自体に意味を求めるものです。このため、各自治体においては、「リファレンス・ロジックツリー」と「活用ガイド」を参考にツリーを作成、熟議してください。
- ロジックツリーの階層構造の定義については、以下のように設定しています。

【5水準の階層定義】



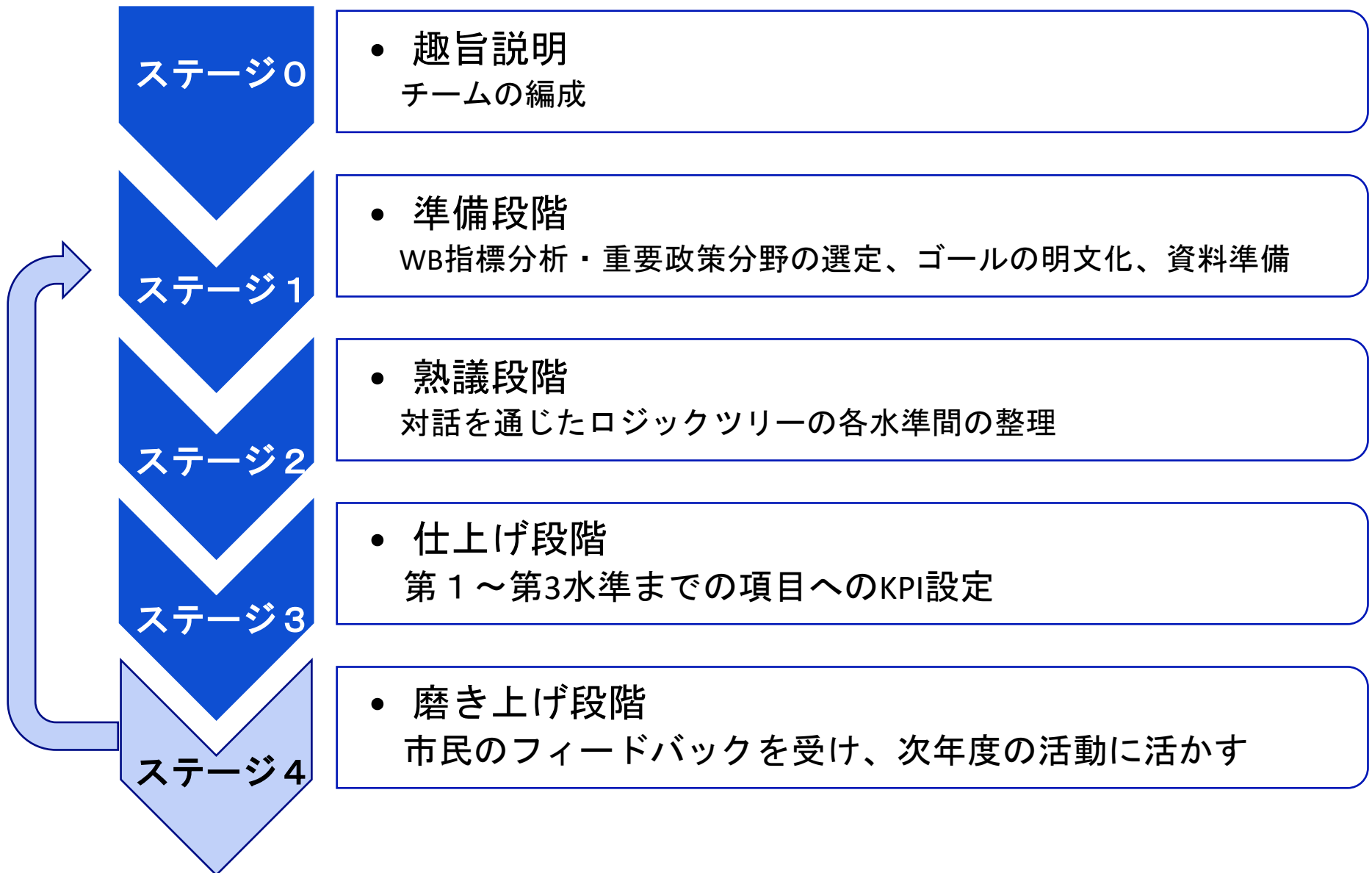
ロジックツリーの骨格②

- WB指標による地域特性分析の後、重要政策分野を特定する。【作成するロジックツリーのテーマ選定】
※重要政策分野（テーマ）に対応するリファレンス・ロジックツリーを参照
- 重要政策分野におけるゴールの明確化 【自治体として目指すWell-beingの明文化】
※自治体として目指す市民生活のWell-beingとはどのような状態か、重要政策分野における定義を明文化
- 第1～第2水準の政策ゴールの達成に必要なアウトカムを第3水準に整理する。
※難しい場合は、リファレンス・ロジックツリーの第1～第3水準を適用
- 第1～第3水準の整理後、選定した政策分野に関する施策を第5水準に並べ、その各取組のアウトプット項目を第4水準に整理する。（たたき台の作成）
- たたき台の作成後、第1～第3水準（左側）と、第4～第5水準（右側）の流れを【右⇒左へ】、逆に【右⇒左へ】と検証する作業を繰り返し、関係者と対話しながら整理する。
※異なる施策間に、上位水準の達成のための共通要素を見いだすことが、一つの鍵となります。



ロジックツリーの作成ステップ（概要）

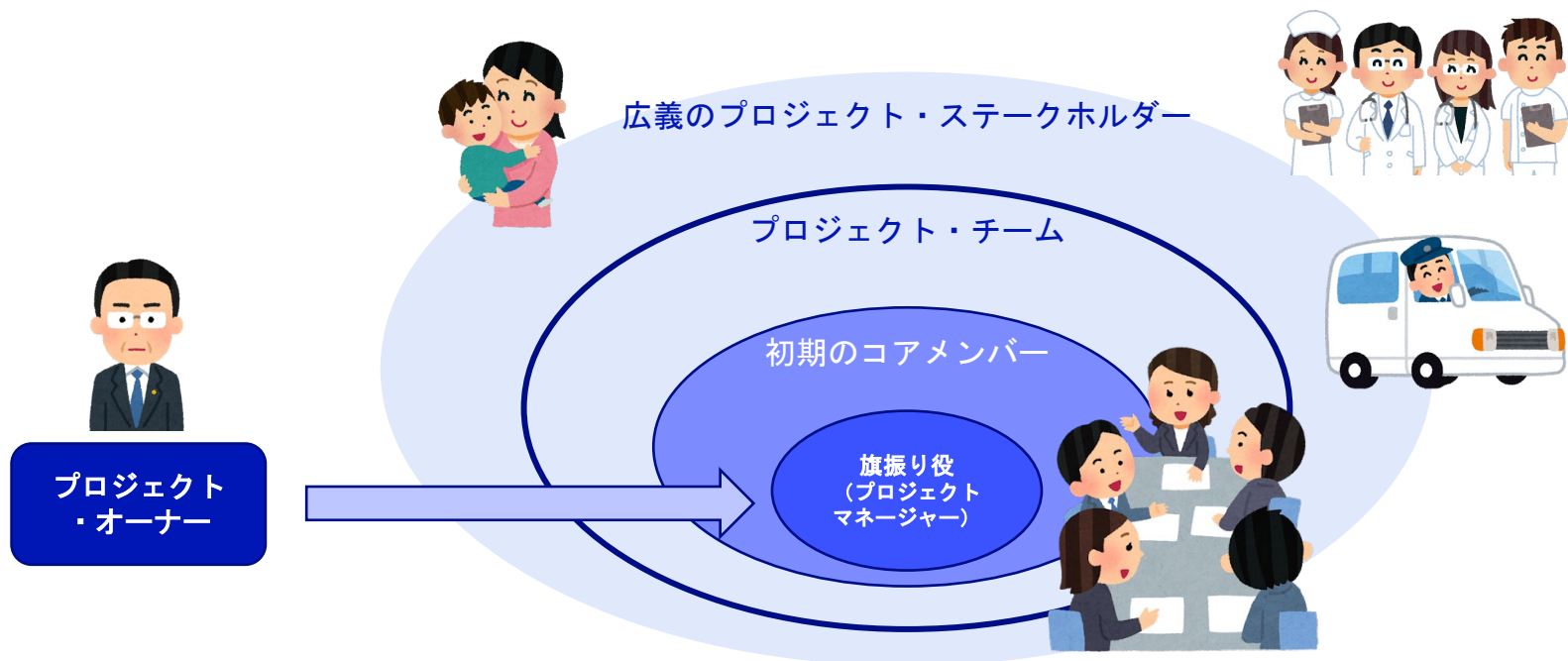
標準作成期間：3か月～6か月



具体的手順(ステージ0)

チームの編成と趣旨の共有

- ① 本作業を始めるに当たっては、プロジェクト・オーナー（首長など）の下、誰か一人、若しくは一つの部局に閉じて作業を行わせるのではなく、部局を超えたチーム編成を行ってください。
- ② まず、全体の調整権限を持っている部署や総務課/企画課などの中から旗振り役を特定し、その方を中心に、各関係部局の専門性を有する職員の協力を得て初期のコアメンバーをチームアップします。
* チームを組成する際は、各メンバーの役割と権限、コミュニケーション方針等を明確にしておくことも大事
- ③ 初期は数人規模の体制で検討を開始し、コアメンバーの理解が深まるにつれて、徐々に主要な関係者へと検討の輪を広げ、部局横断的なプロジェクトチームに育てていくことが有効と考えます。



具体的手順(ステージ0：作業補足)

- 本ガイド及び「リファレンス・ロジックツリー」を用意し、関係者間で作成の趣旨を共有します。これまでのWB指標分析などから、対象分野の確認、作業の進め方などについて、コアメンバーの皆さんで議論をしてください。
- 作業に際しては、対象となる分野の事業群（自治体事業だけでなく、関係する民間事業や、これから実施しようとしている事業なども対象に含めて構いません）について、一覧を作成するなどして事実関係を整理し、メンバー間で共有してください。
- これらの作業が整った後、まずは、プロジェクトの中心になる方々で、たたき台となる整理を試みるのがお勧めです。その後、さらに関係する方々にも集まっていただき、ホワイトボードや模造紙、付箋などを使いながら、たたき台についての意見出し（ブレスト）を行っていただければと思います。
- 作成作業には、パワーポイントで書いていく場合、エクセルを使う場合などがありますが、使い慣れた方がいらっしゃれば、MIROというソフトを使っただけのも一案です。アクセス先は以下をご覧ください。ビジネスに使うための専用ツールなどもありますが、活用は自治体ごとの判断にお任せします。
- 事業群の整理、ブレストの進め方、その他の悩み事についても、適宜、相談窓口にご相談ください。それぞれの状況に応じて対応を検討いたします。

相談窓口：<https://well-being.digital.go.jp/contact>

【Excel, Power Pointなどの場合】

[無料でロジックツリーを作れるツール3選。テンプレート呼び出し1分で作成。 | KodoCode](https://kodocode.net/other-tool-logictree/)

<https://kodocode.net/other-tool-logictree/>

【MIROの場合】

[ロジックツリー作成ツール【書き方と無料テンプレート付き】 -](https://miro.com/ja/diagramming/tree-diagram/)

[Miro](https://miro.com/ja/diagramming/tree-diagram/)

<https://miro.com/ja/diagramming/tree-diagram/>

【市販ツールの例】

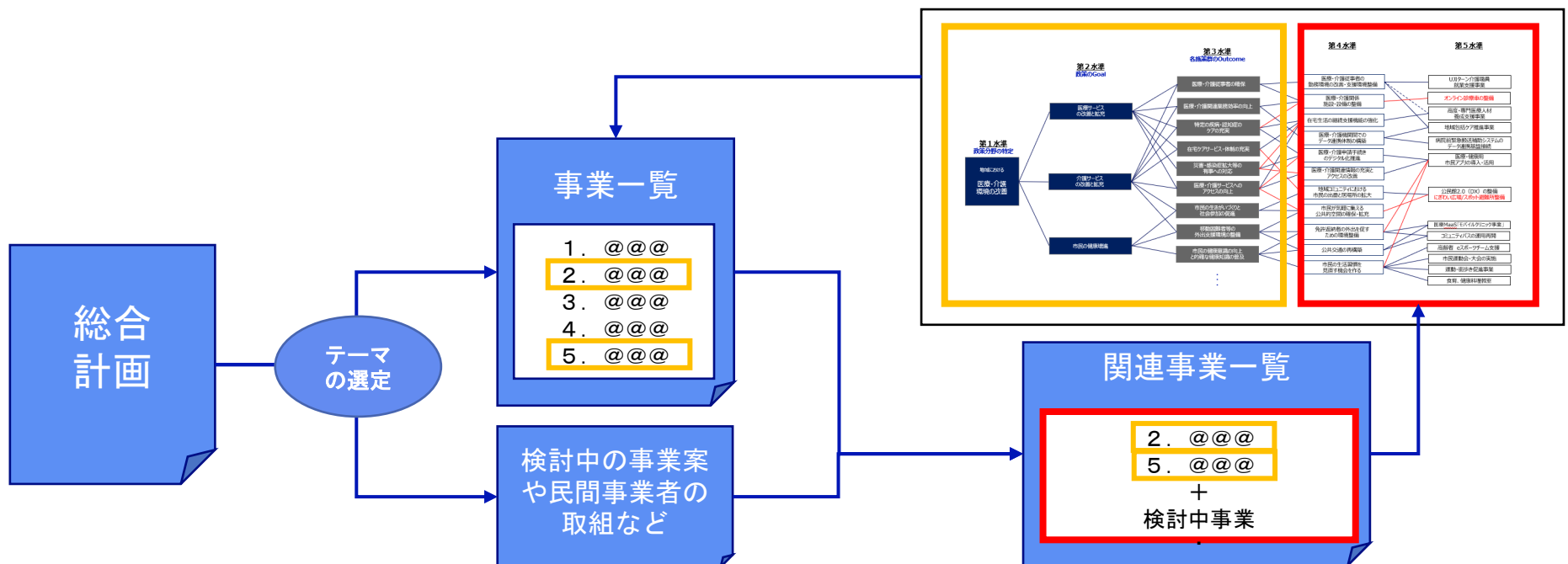
[ロジックツリーとは？作り方と活用できる具体例やテンプレートで解説 | Lucidchart](#)

[【無料テンプレート付き】ロジックツリーとは？作り方や参考例、作成ツールを紹介 \(boardmix.com\)](#)

具体的手順(ステージ1)

準備段階 (たたき台の作成)

- ① 防災、モビリティ、医療・介護など、デジタル庁から提案されたテーマを1つ選定し、重要政策分野におけるゴール（自治体として目指す市民生活のWell-beingとはどのような状態か）を明文化してください。
- ② 当該テーマに関連して施行している事業（予算化しているもの、予算化していないもの）、及び民間事業者の取組（近々本格的な事業化を検討しているものも含む）の一覧を用意してください。
- ③ 用意した事業一覧を参考にしつつ、指定された分野のリファレンス・ロジックツリーにある第1～3水準の記載と関連しそうな取組を洗い出し、ロジックツリー上の第4～5水準に紐づけて仮置きしてください。
- ④ 仮置きした第4～5水準を、リファレンスされた第3水準の各項目に紐付けできるかを精査します。なお、この時点で、第5水準に記載する施策が膨大となる場合は、類型化してカテゴリー名を仮置きしてみるか、施策の優先順位を考慮してより重要な施策のみを掲示するのも一案です。

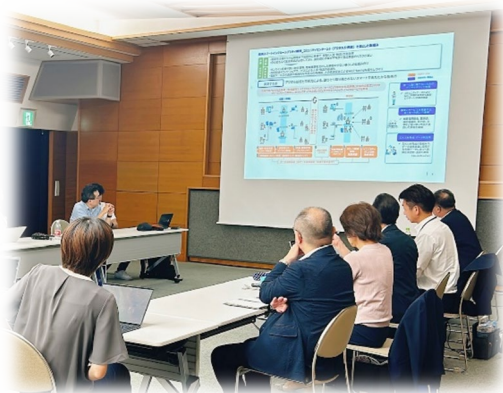


具体的手順(ステージ2)

熟議段階*

- ① 部局を超えた関係者間で集い、できあがった「たたき台」を見ながら、自治体として真に実現したい政策価値を議論し、重要な政策価値を実現するための取組とを紡ぐ政策ストーリーを練り上げてください。
※大量の資料作成は不要ですが、この段階で各関係部局の重要人物を招集し、各人の考えを積極的に俎上に挙げて熟議することが重要です。その際、プレストやプレストツール慣れしたファシリテーターを導入することも一案です。
- ② ステージ1で整理した第4～5水準の記載項目について、上記①の過程で見いだされた重要な政策価値とより整合させるため、必要に応じて記載項目の更なる絞り込みや修正を行います。その後、第4～5水準に記載すべき項目が第1～3水準の記載項目と整合しない場合は、第1～3の各水準でリファレンスされた項目についても適宜修正を加えていきます。
- ③ 上記①～②の作業、すなわち、第1～3水準の記載項目と、第4～5水準の記載項目の間を反復しつつ、真に重要な取組と政策ストーリーを明瞭にしていく作業を繰り返します。

*熟議：当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと



写真：能美市での先行検証・検討の様子

具体的手順(ステージ3)

仕上げ段階

- ① 真に重要な取組が見えてきたら、当該取組と関連すると考えられる取組を特定し、ロジックツリー全体の対象を更に絞り込みます。絞り込みの観点としては、以下のような観点が考えられます。
 1. 対象分野に係るデジタル交付金事業を第5水準の核として、関連する事業を整理したツリー
 2. 対象分野を中心に、同一のデジタル基盤が活用できる事業群を整理したツリー
 3. 対象分野において市政として最も力を入れている事業を選定し、関連する事業を整理したツリー

※第1水準の命題についても、防災、医療といった分野名称にこだわらず、必要に応じて絞り込んだ項目に対して変更しても構いません。
- ② 最後に、各水準に記述された各項目に対し、適するKPIを設定する作業を行います。
 - 第5水準で記載した取組のアウトプットについて、第4水準に対応するKPIを紐付ける（第5水準自体にはKPIの設定はしなくても構いません）。
 - 次に、1つ以上の第4水準が、第3水準のアウトカムに適切に紐付けられているかを確認し、その後、第3水準のアウトカムと対応する第2水準のKPIを紐付ける。
 - 実現すべきゴールとなる第1水準の命題に相応するKPIを選択する。
 - これらのKPIの選択にあたっては、「指標カタログ」で紹介しているWB指標も参照してください。適した指標がない場合は、独自に必要なKPIを開発・選定します。
- ③ できあがったロジックツリー（行政側が仮作成したツリー案）は、首長と協議して了承を求めるとともに、コアメンバー外の庁内職員や市民、事業者等に対して広く提示し、可能な範囲で意見を収集するためのワークショップ（WS）を開催することを推奨します。WSでは、ステージ2～3の作業について、より広範な関係者の参画を求め、自治体ならではのツリーの熟度を高めていってください。

具体的手順(ステージ4)

磨き上げ段階

ロジックツリーを作成して終わりにしないために、継続的な改訂・実装に向けたマネジメントシステムについて検討されることを推奨します。

■ 政策・施策の評価

設定したKPIの達成度や改善点などを検証してください。

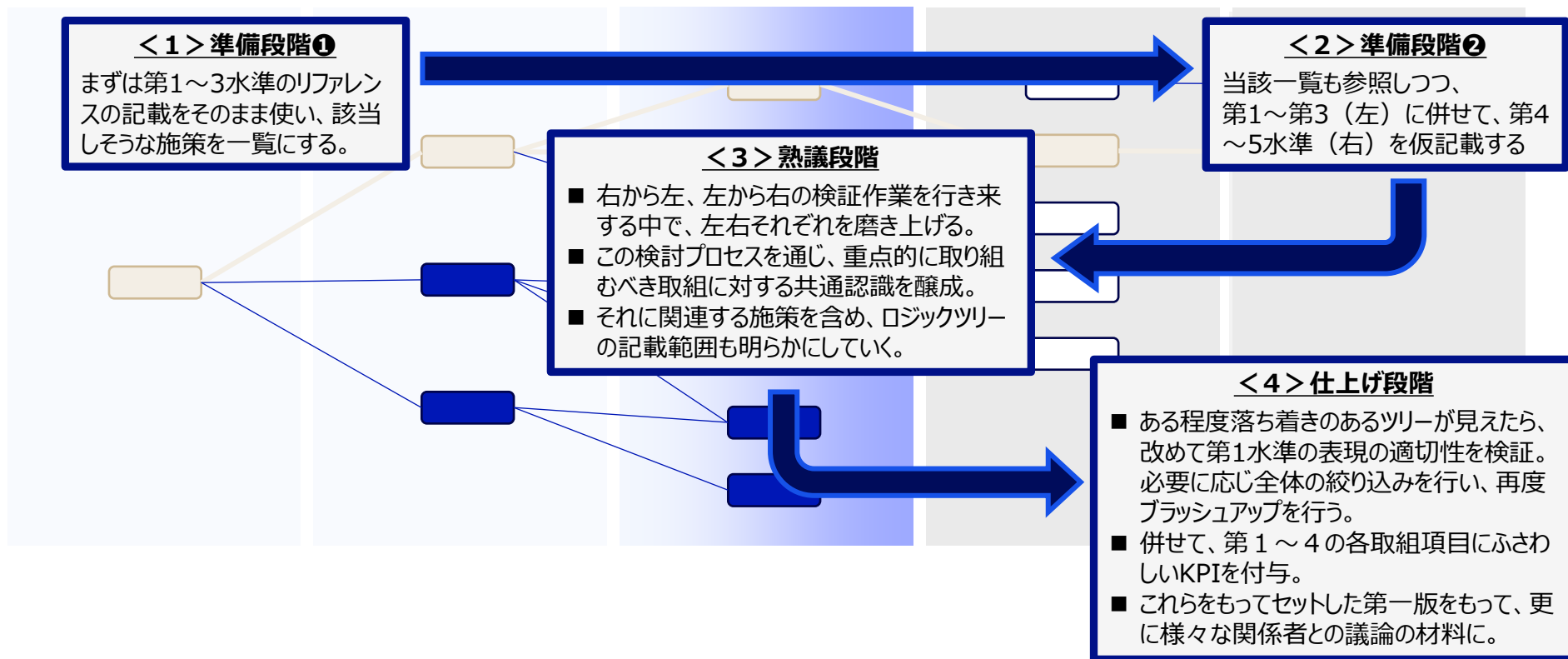
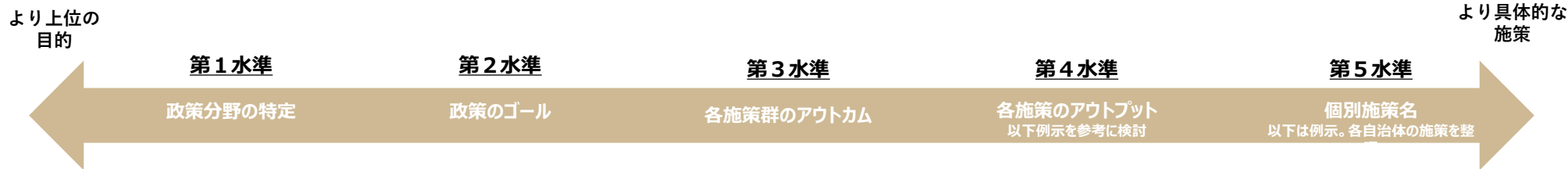
■ 政策・施策へのフィードバック

多様な関係者からの意見を求め、次年度の活動に活かしてください。

■ 市民生活のWell-beingを発信し続ける

自治体としての市民のWell-being推進に向けた姿勢や取組を浸透させていくことを検討ください。

具体的手順(まとめ)



ロジックツリーの作成・利用上の留意点

■ 分類学に走らない

第2～3水準と第4～5水準の間を行き来しながら、
解決すべき真の課題をあぶりだす

- 組織の数だけ施策ができ、財政課が「（予算）枠」にはめ込むのがこれまでの標準的な政策企画。
- よくある「総合計画」は、「枠」の中をきれいに整理する「分類学」。
- 今必要なのは選択と集中。Well-Being指標を用いて「今解決すべき課題」は何かを徹底的に議論する。

➔ Well-Beingを一つの視点に、「公平な分配」から「選択と集中」に、頭を切り替える

■ 部局を越え真に重要な取組を探す

鍵となる取組と関連する施策群を選び抜き、
相互の因果関係をロジックツリーにする。

- 「今解決すべき課題」と関係性の濃い施策から、真に重要な取組をあぶりだし、それと関連の深い施策を選び抜くことが重要。民間独自の取組、これから始める取組も対象に含めることも良い。
- 鍵となる取組や関連施策間の因果関係を俯瞰し、それが生み出すインパクトを整理する。

➔ 課題を支える「芯を喰った各論」を探し出し、それを核にロジックツリーを作り出す

【ロジックツリー試作後の取組】

■ 「芯」を支える仕組みを作る

ツリーが明らかにした施策群に横串を刺し
互いに支え合う仕組みを作る。市民を巻き込む。

- 関係施策を持つ部局が縦割りの壁を超えて、浮き彫りにした因果関係を踏まえ施策を実行する。
- 因果関係に支えられた取組の輪に、他部局の職員と市民の両方の参加（＝まちづくり）を引き出す。
- 部局を超え、必要な事業群を支えるデジタル基盤やモビリティなどのデジタル公共財とその実施体制を整える。

➔ ロジックツリーを基に、必要な取組群に横串を刺す仕組みを考え、そこに市民も参画する。

「指標カタログ」の構成

- リファレンス・ロジックツリーの「指標カタログ」は、例示した各テーマについて、第1水準～第3水準までの各項目について、主観と客観の両側面から評価するKPI指標を提案するものです。
- 指標カタログは、「階層名」、「項目」、「解説」、「指標の種類」、「指標」、「推奨度」、「出典」、「（推奨の）補足説明」から構成されています。
- 基礎自治体において利用しやすいように、定期的に市町村単位で統計数値が開示されている指標を中心に掲載しています。

※LWCI主観指標、LWCI客観指標、自治体によるLWCI独自設問参考事例（[自治体における指標活用実態の調査結果報告書 \(digital.go.jp\)](#)）を中心に選定

例) リファレンス・ロジックツリー「医療・介護編」の指標カタログ（第一水準の抜粋）

階層名	項目	解説	指標の種類	指標	推奨	出典	補足説明
第1水準	地域における医療・介護環境の改善	医療・介護の観点から、市民および従事者らの地域生活の質を高めることを検討する	主観	私は、身体的に健康な状態である	◎	LWCI 主観指標	地域における生活の質を向上させる観点から、これら主観指標が満たされる状態を目指すことを推奨しています。
			主観	私は、精神的に健康な状態である	◎	LWCI 主観指標	
			客観	人口あたり国保医療費 (-)	◎	LWCI 暮らしやすさ客観指標 市区町村版	地域における生活の質を持続的に維持・向上させるため重要な指標を推奨しています。
			客観	人口あたり後期高齢者医療費 (-)		LWCI 暮らしやすさ客観指標 市区町村版	
			客観	非難・救助（自然災害）		LWCI 暮らしやすさ客観指標 市区町村版	

【注】指標カタログは、リファレンスロジックツリーの各水準に対応し得る推奨指標を掲載していますが、地域における政策構想、地域実態、計測可能性等を加味して適切に検証するための指標を設定してください。

(参考) 実証における医療介護ロジックツリー作成の実例～石川県能美市～

1 準備段階：1か月目

デジタル庁の指示に従い、関連する事業を拾い出し、総合計画に基づき分類を試みたところ、医療・介護と言っただけで、かなりの数の予算事業が候補に挙がった。しかし精査すると、そこには「目的の異なる複数の事業が予算上一つの事業に括られているもの」、「総合計画上の整理に従うと、ロジックツリーに入るべき事業が落ちてしまう場合があること」、「類似事業が予算整理上は異なるところに計上されており、まとめられるものがある」などの、分類学の難しさが見えてきた。このため、改めて、伴走支援者との議論などを通じ、趣旨目的などを確認。その上で、特別会計事業など、改めて含めるべき事業の再整理を試行した。

2 熟議段階：2か月目

取っ掛かりを「第5水準から上位水準へ」のボトムアップ型（右から左）から、「第1水準から下位水準へ」のトップダウン型（左から右）へと変え、左右交互に見直しを繰り返したところ、徐々に、「本市の政策ゴールは何か？」について意識が強まり、リファレンスロジックツリーありきではなく、本市の課題からありたいゴールを考えるようになった。

伴走支援者からのアドバイスを踏まえ、「特に注力する事業にしぼる」「通常の運用事業等は省く」一方で「絞り過ぎるとわからなくなる」点に留意しながら、省く事業を省き、含める事業を再度整理。更に第5水準の事業は、複数の事業で構成されている事業については分解し、その後、同じ効果をもたらす事業はまとめるなどの整理を行った。まとめた事業をくくるのは悩ましかったが、事業効果が出た状態を「くくった事業名としてもよい」とすることで、まとめることができ、整合性のとれたロジックとそのつながりが見えてきた。

こうした作業を繰り返すうち、第2水準と第5水準の関係性の重要性に気付き、その視点から更に見直すと、予算事業の中に埋もれていた、総合計画の位置づけの中で見えにくくなっていた隠れた取組のうち、第5水準以下で取り上げるべき重要な取組が見えるようになってきた。その結果、既存の予算事業や総合計画上の整理に必ずしもこだわらずに、更に具体的な事業や作業レベルになるまで取組を分解することが可能となり、すっきりした整理ができ完成した。

3 仕上げ段階：3か月目

この段階で、伴走支援者から、客観データから見える街の課題についての問題意識を投げかけられた。「RESASで分析すると、能美市は、製造業の所得水準は高いが、収入系インデックスが悪い。市町村合併前の3地区の特徴と分断が見えてくる。3地区の産業特性が違う。他方、いずれの地域も、多様性や発信が弱く、にぎわった店を目指す人も少なく、皆さん真面目に生活している。このためにぎわう場所を生み出しにくい。もう一つの大きな特徴は、人口カーブのピークが50代にあること。60代もそうだが、特に70～80代が少ない。この構造は、10年後に大量の定年退職者を生み、今の60代は後期高齢者に近づくことから、市の財政が急速に圧迫される可能性がある。」

このため、このことを意識して重要政策を絞り込み、今後の市政に必要な政策の仮説を設定した。この仮説を踏まえ、第6水準まで膨らんだロジックツリーのたたき台を、以下の対処方針で再整理する作業を行うことに。

- ① 第3・4水準を1つに統合（市民目線で書かれた第4水準にほぼ統一してもよい）し、残る第5・6水準を、そのまま第4・5水準に引き上げ
- ② デジ田事業を核に医療介護分野においてデジタルにつなぐと相乗効果が得られる事業や、能美市の課題に注目して絞る（弱みや強みを伸ばす）という視点から、ロジックツリーに取り上げる事業を、全体的にデジ田事業の視点に絞り込み。

その結果、新第3水準の表現や新第4水準の表現が「アウトカム」「アウトプット」の表現になっていない違和感を感じ、新第4水準を「誰にどんな効果・価値のある事業なのか」、第3水準は、「街がどう変わるか」と視点を置いて整理。その結果、全体をまとめやすくなり、逆に加えるべき事業と、不要な事業とのメリハリがつくこととなった。また、これらの作業と並行してデジ田事業としてのロジックツリーの作成を開始。

デジ田事業のツリーを作成することで、第1水準から第5水準までのつながりを再考する機会となり、いったんたたき台が完成した。

その後、医療介護のロジックに戻り見直しをかけたところ、全体を俯瞰したことが結果的に功を奏し、医療/介護全体についても、ある程度整理がついたものが作れるようになった。

4 仕上げ段階・磨き上げ段階：3か月目

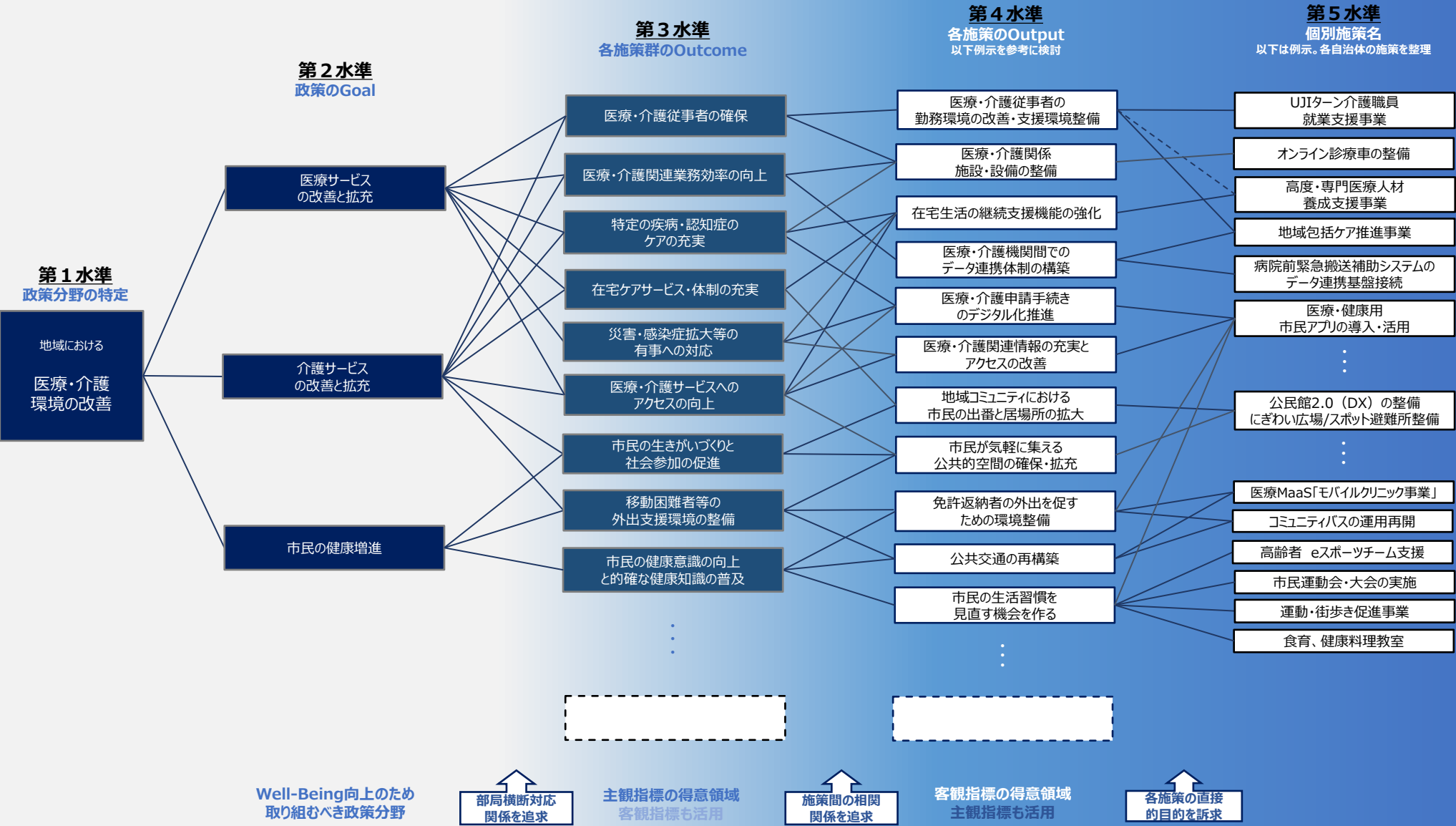
これを今後、組織内でどう生かしていくのか、政策評価などの見直しにどうつなげていくのか、KPIの設定作業を行いつつ、今後市役所内部で検討していく。



リファレンス・ロジックツリー



リファレンス・ロジックツリー【医療・介護環境の改善編】



各項目に紐付く指標案（医療介護環境の改善編）

OQ：自治体独自設問参考事例集
AD：今回加えた項目

	アイテム	解説	区分	項目	出典
第一水準	地域における医療・介護環境の改善	医療・介護の観点から、市民および従事者らの地域生活の質を高めることを検討する	主観	暮らしている地域は、医療機関が充実している	LWCI 主観指標
			主観	私は、身体的に健康な状態である	LWCI 主観指標
			主観	私は、精神的に健康な状態である	LWCI 主観指標
			客観	人口あたり国保医療費 (-)	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	人口あたり後期高齢者医療費 (-)	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	避難・救助（自然災害）	市区町村版 暮らしやすさ客観指標

各項目に紐づく指標案（医療介護環境の改善編）

OQ：自治体独自設問参考事例集
AD：今回加えた項目

	アイテム	解説	区分	項目	出典
第二水準	医療サービスの改善と拡充	医療に関する自治体及び地域事業者が提供するサービス品質を高めるための施策	主観	暮らしている地域では夜間・緊急医療体制が整っている	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、福祉サービス（在宅福祉など）が充実している	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、デジタル技術等を活用し、救急医療体制の高度化を図る取組みが実施されている	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、デジタル技術を活用した健康・医療アプリ（サービス）を何度も利用した	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、デジタル技術を活用した健康・医療アプリ（サービス）を利用したい	OQ 医療・福祉
			客観	可住地面積あたり医療施設数	LWCI 客観指標
			客観	人口あたり医療施設数	LWCI 客観指標
			客観	人口あたり産科・産婦人科医師数	LWCI 客観指標
			客観	医療施設徒歩圏人口カバー率	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	一般診療所数	厚生労働省
			客観	訪問診療を実施する診療所数	厚生労働省
			客観	在宅療養支援診療所・病院の届出数	厚生労働省
			客観	医療機関数（合計）	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
			客観	病床数（医科合計）	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
			第二水準	介護サービスの改善と拡充	介護に関する自治体及び地域事業者が提供するサービス品質を高めるための施策
主観	暮らしている地域では、福祉サービス（在宅福祉など）が充実している	OQ 医療・福祉			
主観	暮らしている地域では、直近〇〇ヶ月の家族の介護・看護には満足している	OQ 医療・福祉			
客観	介護老人福祉施設（基本票）（65歳以上人口10万当たり）【所】	e-Stat（市区町村データ）			
客観	可住地面積あたり介護施設数	LWCI 客観指標			
客観	人口あたり介護施設数	LWCI 客観指標			
客観	人口あたりホームヘルパー数	LWCI 客観指標			
客観	福祉施設徒歩圏平均人口密度（-）	市町村版 暮らしやすさ客観指標			
客観	人口あたり認知症サポーター・サポーター数	市町村版 暮らしやすさ客観指標			
客観	訪問看護ステーション数	介護サービス施設・事業所調査			
客観	訪問看護ステーションの看護職員数（常勤換算）	介護サービス施設・事業所調査			
客観	介護施設数（合計）	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）			
第二水準	市民の健康増進	市民の未病推進のための日常的な生活習慣の維持・向上を図る施策	主観	私は、身体的に健康な状態である	LWCI 主観指標
			主観	私は、精神的に健康な状態である	LWCI 主観指標
			主観	地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである	LWCI 主観指標
			客観	健康寿命（平均自立期間）（男性）	市町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	健康寿命（平均自立期間）（女性）	市町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	特定健康診断受診率	LWCI 客観指標
			客観	スポーツ行動者率	LWCI 客観指標
			客観	喫煙率（-）	LWCI 客観指標
			客観	人口あたり気分障害（うつ等）受療者数（-）	LWCI 客観指標
			客観	人口あたり生活習慣病受療者数（-）	LWCI 客観指標
			客観	ウォーカブル指数	市町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	高齢者有業率	市町村版 暮らしやすさ客観指標

各項目に紐付く指標案（医療介護環境の改善編）

OQ：自治体独自設問参考事例集
AD:今回加えた項目

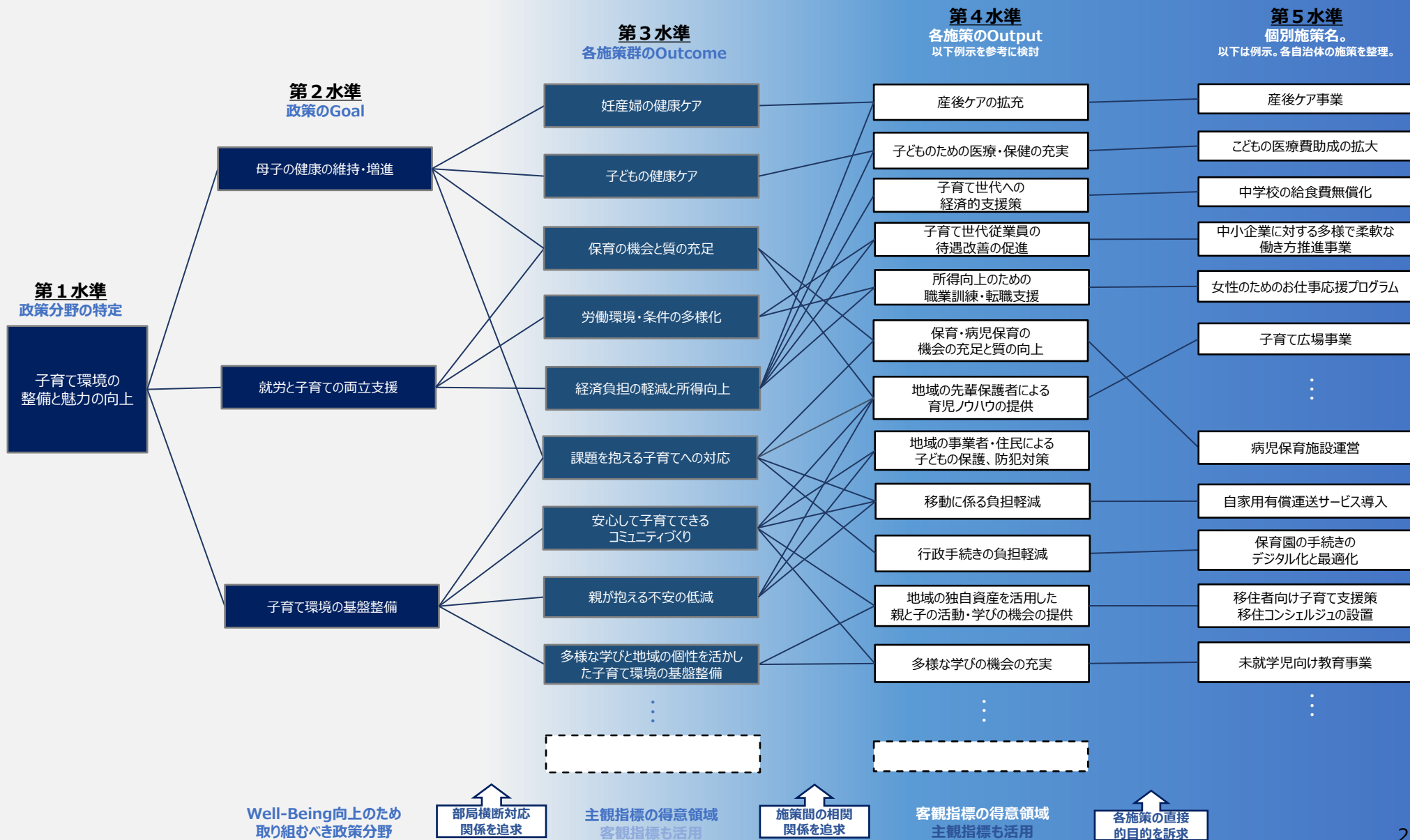
	アイテム	解説	区分	項目	出典
第三水準 (1)	医療・介護従事者の確保	医療・介護の現場を支える従事者の労働環境や生活の質を向上させるための施策	主観	はたらく幸せ実感/不幸せ実感	パーソル総合研究所・慶應義塾大学
			主観	はたらく幸せ/不幸せ因子	パーソル総合研究所・慶應義塾大学
			主観	ワーク・エンゲイジメント	慶應義塾大学 総合政策学部 島津研究室
			客観	医療機関医師数	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
	医療・介護関連業務効率の向上		主観		
			客観		
	特定の疾病・認知症のケアの充実	生活習慣病や認知症へのケア体制を充実させるための施策	主観	暮らしている地域では、福祉サービス（在宅福祉など）が充実している	LWCI 主観指標
			主観	暮らしている地域では、直近〇〇ヶ月の家族の介護・看護には満足している	OQ 医療・福祉
			客観	通所型介護施設数	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
			客観	入所型介護施設数	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
			客観	特定施設数	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
			客観	入所定員数（入所型）	日本医師会地域医療情報システム（JMAP）
	在宅ケアサービス体制の充実	長期入院などの負担を強わず、在宅での療養・介護体制を提供するための施策	主観	暮らしている地域では、福祉サービス（在宅福祉など）が充実している	LWCI 主観指標
			主観	暮らしている地域では、直近〇〇ヶ月の家族の介護・看護には満足している	OQ 医療・福祉
			客観	人口あたり認知症サポーターメイト・サポーター数	市町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	人口あたり在宅医療事業者数	
			客観	訪問看護ステーションの看護職員数	厚生労働省
			客観	訪問看護ステーションの看護職員数	厚生労働省
	災害・感染症拡大等の有事への対応	有事に対する備えるための施策	主観	暮らしている地域では夜間・緊急医療体制が整っている	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、デジタル技術等を活用し、救急医療体制の高度化を図る取組みが実施されている	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、デジタル技術を活用した健康・医療アプリ（サービス）を何度も利用した	OQ 医療・福祉
			主観	暮らしている地域では、デジタル技術を活用した健康・医療アプリ（サービス）を利用したい	OQ 医療・福祉
			客観	■可住地面積あたり医療施設数	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■人口あたり医療施設数	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
	医療・介護サービスへのアクセス向上	医療・介護に関わる各種サービスを受けやすくするため、デジタル化を含むアクセスを向上させるための施策	主観		
			客観	自治体DX指数	市区町村版 暮らしやすさ客観指標（KPI）
			客観	デジタル政策指数	市区町村版 暮らしやすさ客観指標（KPI）

各項目に紐付く指標案（医療介護環境の改善編）

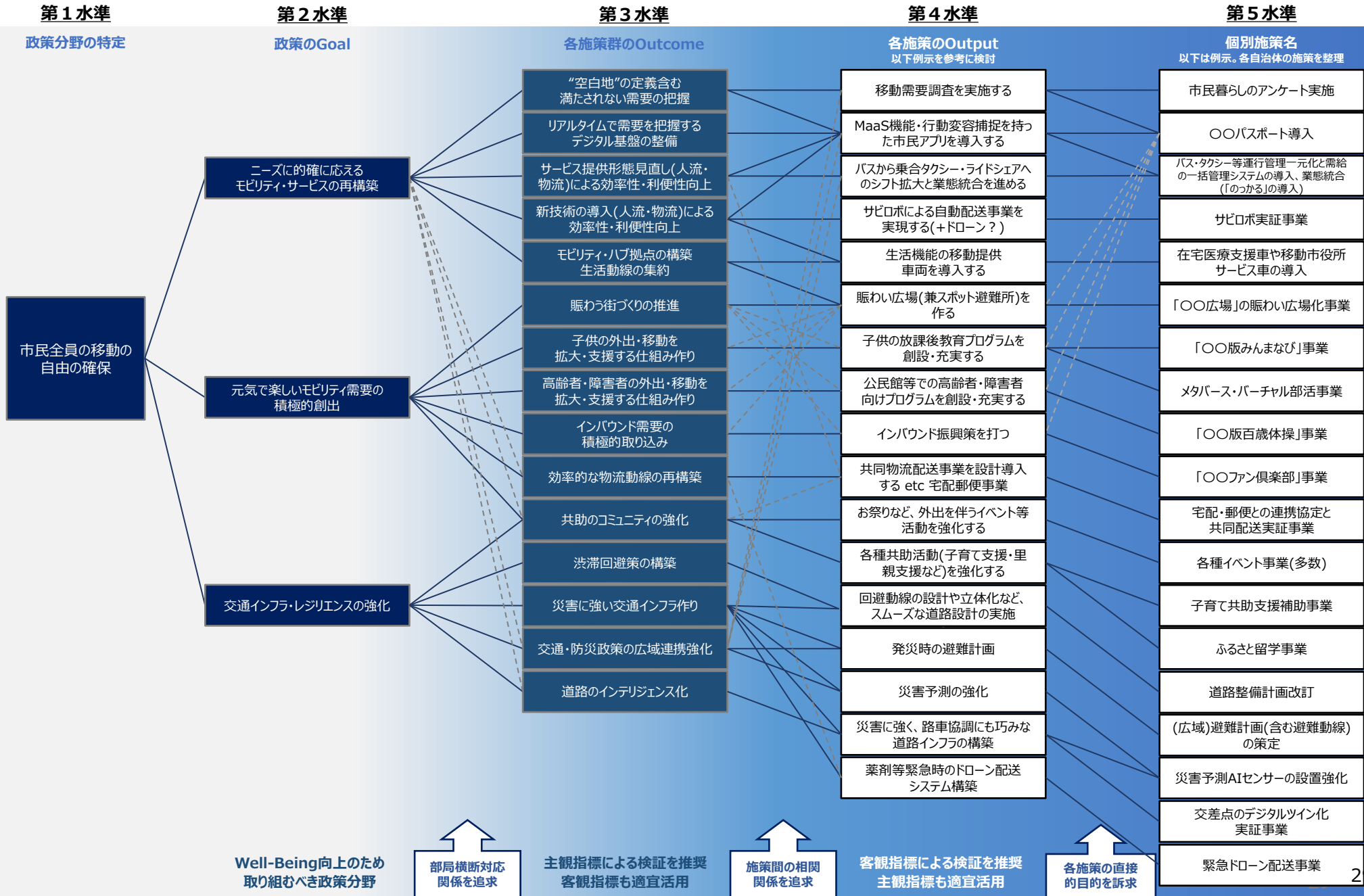
OQ：自治体独自設問参考事例集
AD:今回加えた項目

	アイテム	解説	区分	項目	出典
第三水準 (2)	市民の生きがいづくりと社会参加の促進	ミドル・シニア世代のフレイル予防と地域生活における幸福感を維持・向上させるため、他者との交流を促進する施策	主観	■ 私は同じ町内に住む人たちを信頼している	LWCI 主観指標（地域の間関係）
			主観	■ 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである	LWCI 主観指標（地域の間関係）
			主観	■ 困ったときに相談できる人が身近にいる	LWCI 主観指標（地域の間関係）
			主観	■ 町内の人が困っていたら手助けする	LWCI 主観指標（地域の間関係）
			客観	■ 人口あたり自殺者数 (-)	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■ 高齢単身世帯の割合 (-)	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■ 人口あたりNPOの数	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■ ボランティア行動者率	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■ 祭り開催数	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■ 人口あたり生涯学習講座数	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	■ 人口あたり生涯学習講座受講者数	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	自治会・町内会加入率	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
	移動困難者等の外出支援環境の整備	ミドル・シニア世代のフレイル予防のため、徒歩モビリティサービスを活用して外出を促す施策	主観	公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる	LWCI 主観指標（生活環境）
			客観	ウォークブル指数	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	公園緑地徒歩圏人口カバー率	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	人口あたり公園の面積	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	歩道設置率	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観	駅またはバス停流所徒歩圏人口カバー率	市区町村版 暮らしやすさ客観指標
			客観		市区町村版 暮らしやすさ客観指標
	市民の健康意識の向上と的確な健康知識の普及	市民の健やかな市民生活を維持・向上するため、未病対策として取り組む施策	主観	私は、身体的に健康な状態である	LWCI 主観指標
			主観	私は、精神的に健康な状態である	LWCI 主観指標
			主観	健康寿命年齢	都道府県版 暮らしやすさ客観指標
			客観	人口あたり体育施設利用者数	

リファレンス・ロジックツリー 【未就学児子育て編】



リファレンス・ロジックツリー 【モビリティの維持・向上による生活環境の改善編】



Well-Being向上のため
取り組むべき政策分野

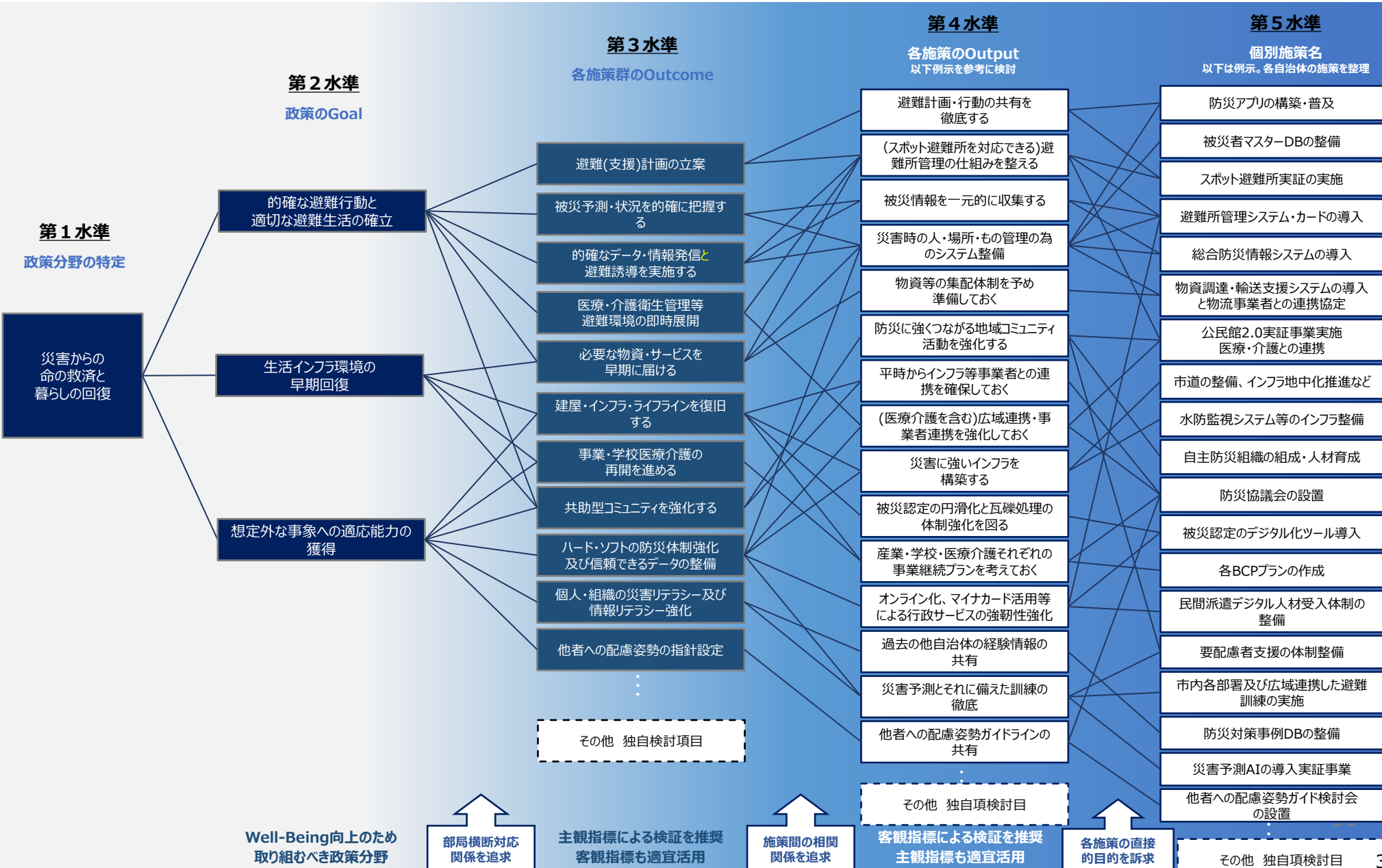
部局横断対応
関係を追求

主観指標による検証を推奨
客観指標も適宜活用

施策間の相関
関係を追求

客観指標による検証を推奨
主観指標も適宜活用

各施策の直接的
目的を訴求



用語集

- **アウトプット**：作業やプロセスの結果として得られる成果物や情報を指す。
- **アウトカム**：アクションやプロセスがもたらす結果や影響のこと。アウトプットが具体的な成果物であるのに対し、アウトカムはその成果がもたらす効果や結果。
- **スコープ**：プロジェクトや活動の範囲や限界を示す言葉です。何を含め、何を除外するかが定義されます。
- **フォーカス**：注意を集中させる対象や、重要視するポイントのこと。
- **ワークショップ**：参加者が集まり、共同で特定の課題について学んだり、議論したり、作業を行う形式の会議やセッション。
- **KPI (Key Performance Indicator)**：重要業績評価指標の略で、企業やプロジェクトのパフォーマンスを測定するために使用される特定の指標。
- **相関関係**：2つの要素が一緒に変動する関係。片方が増えるともう片方も増える、または減るという関係ですが、原因と結果の関係ではないことも多い。
- **因果関係**：1つの要素がもう1つの要素に直接影響を与える関係。つまり、Aが原因でBが起こるという関係。
- **ブレスト（ブレインストーミング）**：グループで自由にアイデアを出し合い、批判をせずにアイデアを集める発想法。

別紙

- なぜロジックツリーなのか
- できあがったロジックツリーは何に使うのか

何故ロジックツリーなのか

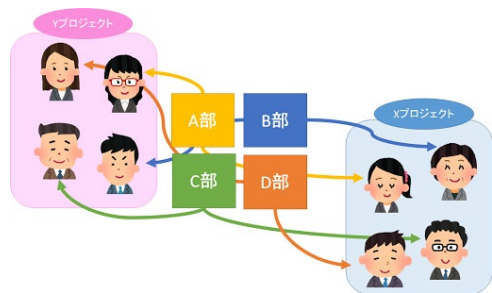
<ロジックツリーとロジックモデル>

- ロジックツリーは、チームで課題や現状を共有するためのロジカルシンキングツールです。しかし、施策間の関係性やKPI間の因果関係を正確に整理し、政策評価まで行う場合には、ロジックツリーではなく「ロジックモデル」を使用する必要があります。
- 例えば、厚生労働省は厚生労働分野の政策評価を行うためのロジックモデルを公表しています。
- ロジックツリーとロジックモデルは似ていますが、ロジックツリーはロジカルシンキングのためのツールであり、ロジックモデルは分析ツールであるため、因果関係の記述の厳密性に違いがあります。厚労省のロジックモデルについては、[こちら](#)も参考にしてみてください。



<作業の目的>

- 今回は、そこまで厳密な整理は必要ありません。皆さんには、関連しそうな施策を並べ、ツリー作りを通して、施策や部局間の関係性に気づいていただくことが目的です。したがって、ツリーのレベルでの整理で十分だと考えています。
- そのため、作成するツリーに厳密性は求めていません。WB指標に基づく分析から得られた重要な政策分野について、ツリー作成を通じて、部局を超えた視点から、インパクトのある重要施策や相乗効果を持つ関連施策を見つけ出すことが目的です。また、どの部局の施策が他の部局の施策と強く関連しているかといった点にも気づき、現状の認識を共有することを目指します。



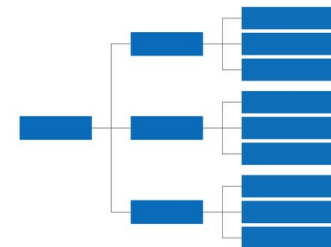
<部局を越えた議論>

- 立場や所属部局が異なれば、政策判断の基になる事実関係や現状認識も異なるのは当然です。自分の担当分野に注目するのは自然なことです。その結果、部局ごとに異なる事実認識が、縦割り行政の弊害の一因となります。本作業では、ロジックツリーというツールを用いて、部局間でブレインストーミングを行い、現状認識を共有し、新たな気づきを得ることを目指しています。
- この作業を省略したままデジタル関連事業を進めようとする、部局を超えた協力が得られず、DXが進まないどころか、宙に浮いたデジタル事業を生み出してしまふことがよくあります。縦割りを越えたDXを実現するためにも、部局間で施策の因果関係に関する現状認識を共有していただきたいと考えています。DXに関しては、説明会で詳しくお話しできればと思います。



できあがったロジックツリーは何に使うのか

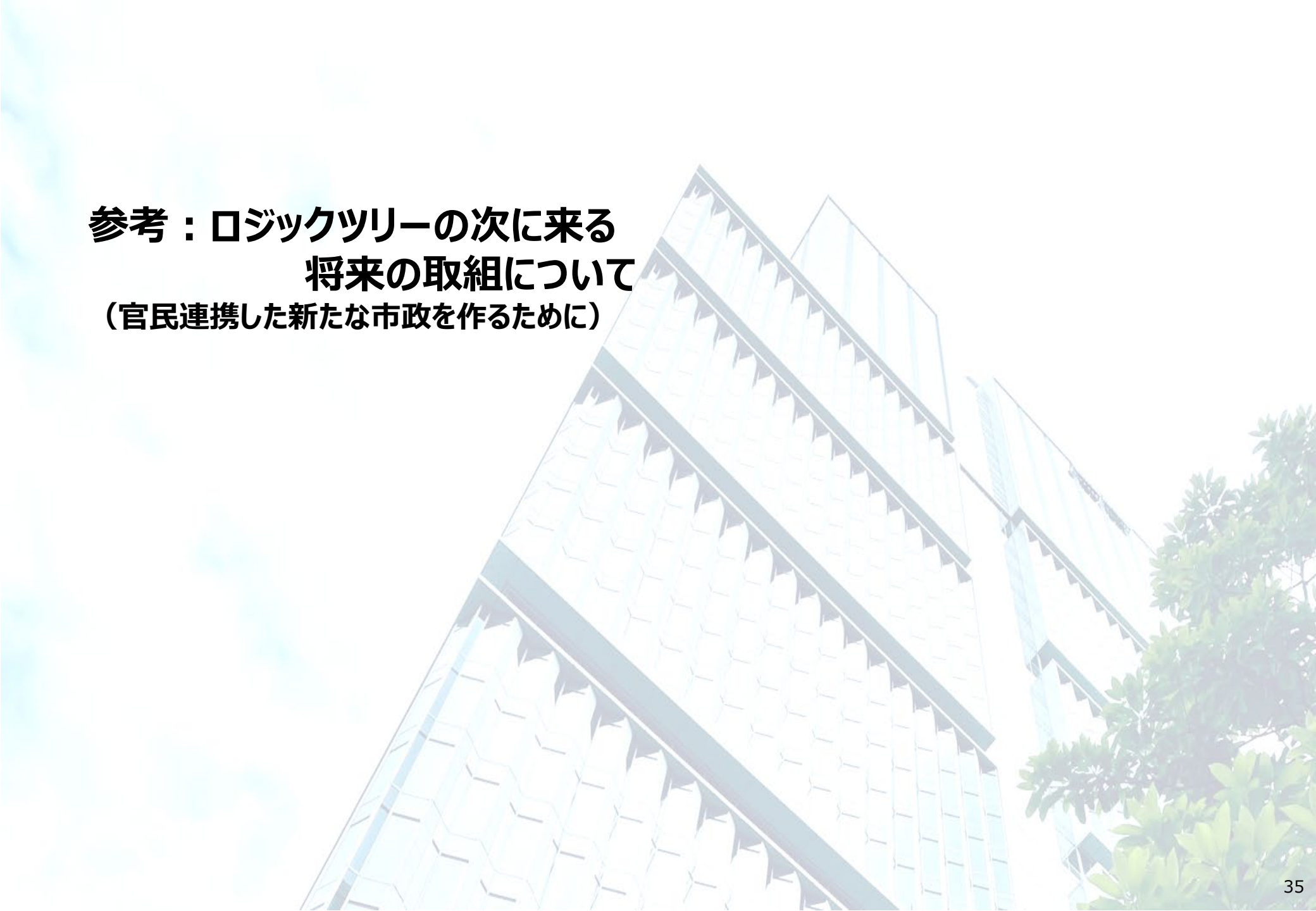
- ツリーの内容をデジタル庁が審査したり、それによって交付金額が変動することはありません。このツリー作りの目的は、ツリーの完成度ではなく、その作成プロセスを通じて、部局を横断し、最終的には市民と市役所が共通の認識を築き上げることです。
- 重要なポイントとして、デジタル庁よりも、地域の現場にいる皆さんの方が潜在的に現状を正確に把握している場合が多いです。この作業は、その潜在的な気づきを共通言語として整理するためのものと言えます。そのため、ツリー自体は成果物として優劣を競うものではないので、安心して作業に取り組んでください。



- 作業は、「活用ガイドその2」に示されているように、慶応大学の前野・白坂研究室の協力で作成したリファレンス・ロジックツリー（作業の参考となるツリー）を使いながら進めていただきます。ただし、医療・介護や防災といった広い分野を扱う場合、対象が広すぎて、十分な共有に至らないこともあります。
- そのため、一度ツリーを作成した後、デジ田交付金の対象事業や、部局を超えて共通のデジタルツールが活用できる事業群など、対象範囲を地域の特性やニーズに応じて再設定することが重要です。このプロセスを通じて、来年度以降の事業における市役所内の執行体制の整理や、事業設計に活用していただければと考えています。

- ツリーは年度末までに一度仕上げていただきますが、具体的なスケジュールについては、各団体の進捗状況に応じて最終決定します。また、慶応大学の前野・白坂研究室のメンバーやデジタル庁の担当者が、各分野において作業プロセスの進め方について随時個別にご相談に応じます。
- 完成したツリーは交付金事業の成果物としてご提出いただきますが、一般公開については望ましいと考えております。しかし、公開の是非は最終的に個別で判断させていただきます。さらに、次の交付金事業の申請や執行に際しては、作成したツリーを何らかの形で活用することを検討しています。詳細については事業設計が完了次第、お知らせいたします。





**参考：ロジックツリーの次に来る
将来の取組について
(官民連携した新たな市政を作るために)**

ロジックツリーを作った上で、目指すべき最終形は何か。

- ロジックツリー作りの作業は、他部局や市民も巻き込み、ワークショップなどを通じて自分たちにとって大切な施策を探し出し、広く政策の自分ごと化を促すこと。そして関係者の市政へのコミットを引き上げるのが狙いです。
- 次の段階の取組として、行動変容計測アプリ（デジ庁から希望自治体に提供予定）などを活用し、焦点を当てた取組への市民の参加率など取組効果をリアルタイムで計測。その結果得られた社会的課題へのインパクトを数値化し、民間からの投資や協力、次の政策作り（EBPM）に活用することも、将来的な課題です。

■ 課題及び重点的取組の洗い出し

WB指標&ロジックツリーを用い
ワークショップなどの対話を促す

- WB分析から得られた重要政策テーマから特に重要な取組を探し出す。
- 重点的取組と関連する各部局の取組のインパクトへの認識を共有し、各部局の職員における取組（施策）の自分ごと化を深化。ひいては部局間協業の引き出しへ。

(ワークショップの様子)



■ 市民の政策の自分ごと化を促進

取組への参加率などを測定する
ポイントアプリなどを普及させる

- 市民の皆さんとも、同様のロジックツリー検討プロセスを共有し、施策の自分ごと化を促進。
- 行動変容計測アプリなどを導入し、市民の参加インセンティブを引き上げ。
- 得られた行動変容データから、次の取組の進むべき方向性について修正舵をあてる。



(行動変容計測アプリ)

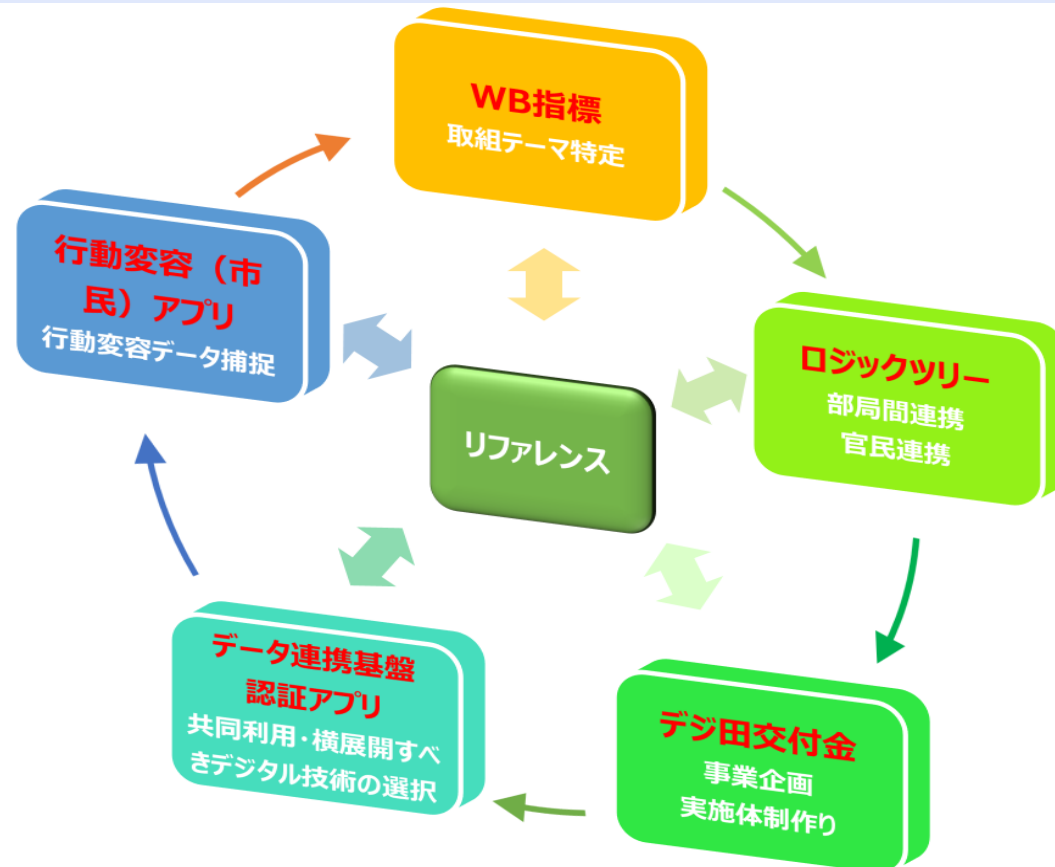
■ EBPMや資金調達に活用

部局を超え因果関係を明らかにする
ソーシャルインパクトを測り公開する

- 行動変容データと翌年度に向けて行う次のWB指標分析結果を重ね合わせることで、次の重点施策を浮き彫りに。
- 各取組が課題解決に与えるインパクトをKPIにより数値化し、ロジックツリーとともに公表。
- 政策の社会受容性を高めるとともに、ふるさと納税など外部からのSDGsファイナンスなどにつなげる。

狙い：デジタル事業の好循環作りと政策推進プロセスの成熟化

- 以下の政策PDCAサイクルを、市民とともに暮らしのDXの取組に導入するのが、最終的な狙いです。
 - ①WB指標分析を通じた課題分析→②ロジックツリーによる課題解決に必要な取組分析→③行うべきプロジェクトの企画・事業化→④活用すべきデジタル基盤の実装→⑤行動変容・効果の計測→そして①次のサイクル冒頭のWB指標分析を通じた改善度合いの測定と次なる課題の分析
 - その際得られた知恵や改善のポイントを、各種リファレンス（活用ガイド等）に蓄積
- 5つの取組（下図参照）の一つ一つを、各自治体が得意な部分から育てつつ、徐々に好循環の輪をへとつなげ部局横断的に重要施策を推進できる体制・組織を生み出していくことが、究極の目標となるかもしれません。



デジタル庁
Digital Agency